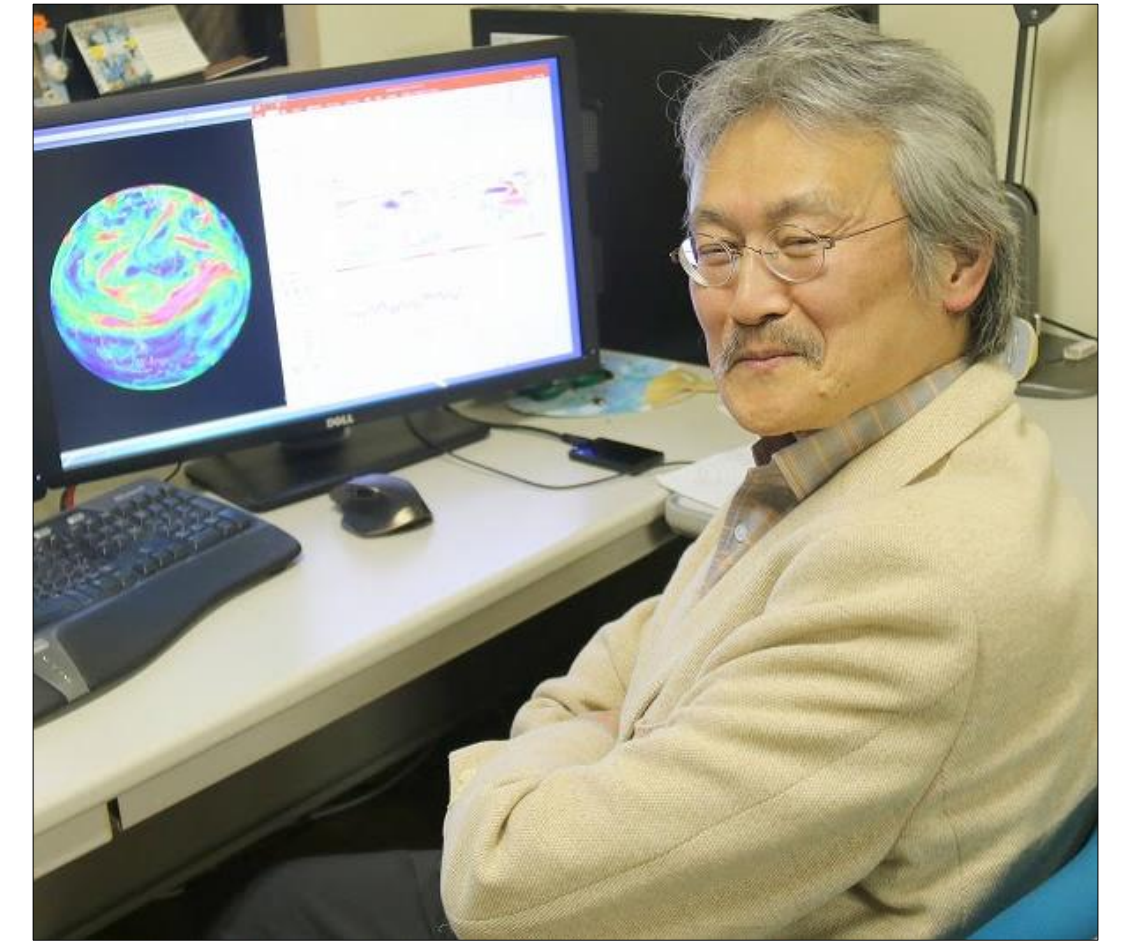


# 気象・気候ダイナミクス研究室

Weather and Climate Dynamics Division

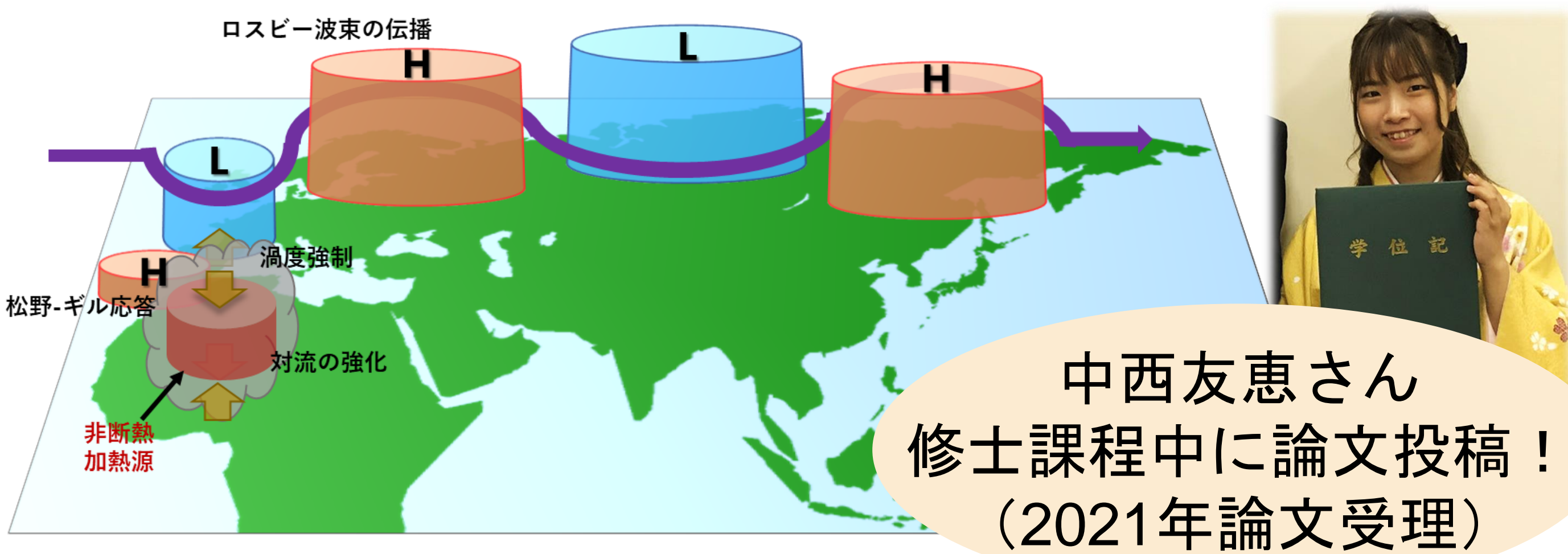
地球規模での異常な気候が「なぜ？」起こっているのか。  
この「なぜ？」に対する完全な答えを人類はまだ得ていない。  
それを気象学をベースとして解き明かすこと。  
それに挑んでいるのが気象・気候ダイナミクス研究室である。

立花 義裕  
教授



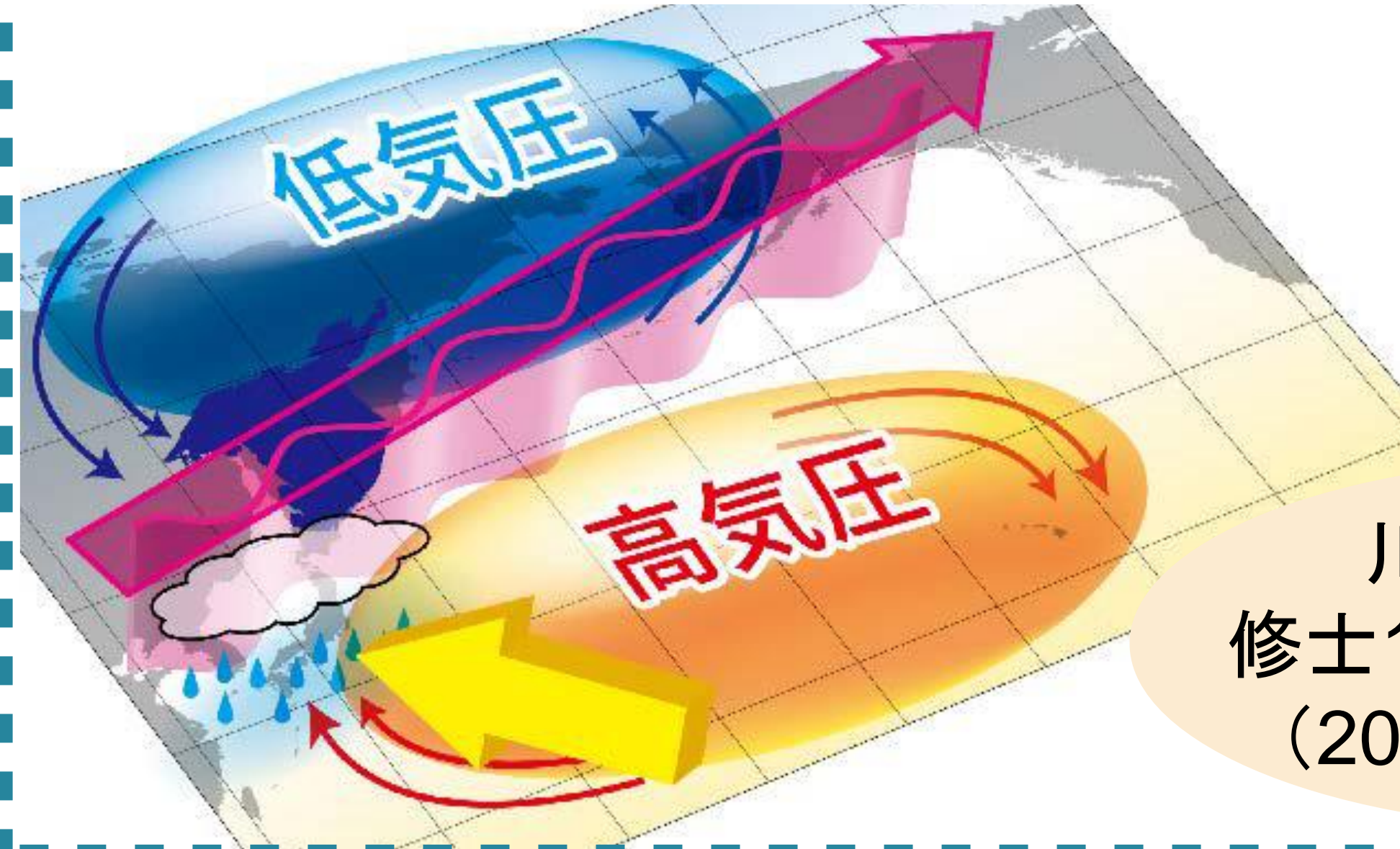
## 最新の研究成果

日本やアジアの異常気象の一因が アフリカの  
サヘル地域の雨雲にあることを初めて解明  
— アフリカのサヘル地域で大雨が降れば、日本は猛暑に —



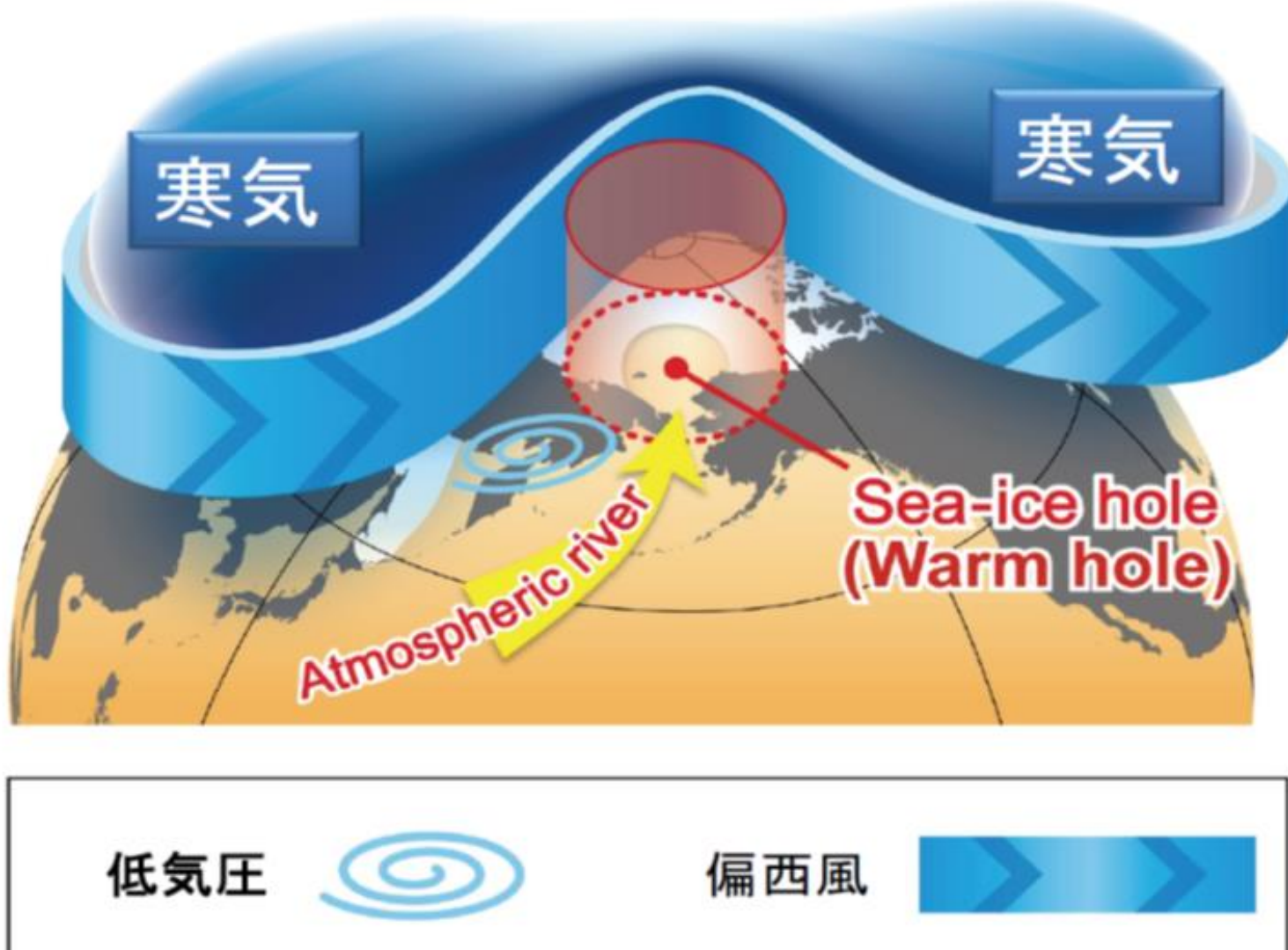
中西友恵さん  
修士課程中に論文投稿！  
(2021年論文受理)

低温のオホーツク海は、  
梅雨と夏の太平洋高気圧を強めている  
～西日本豪雨にも影響か？～



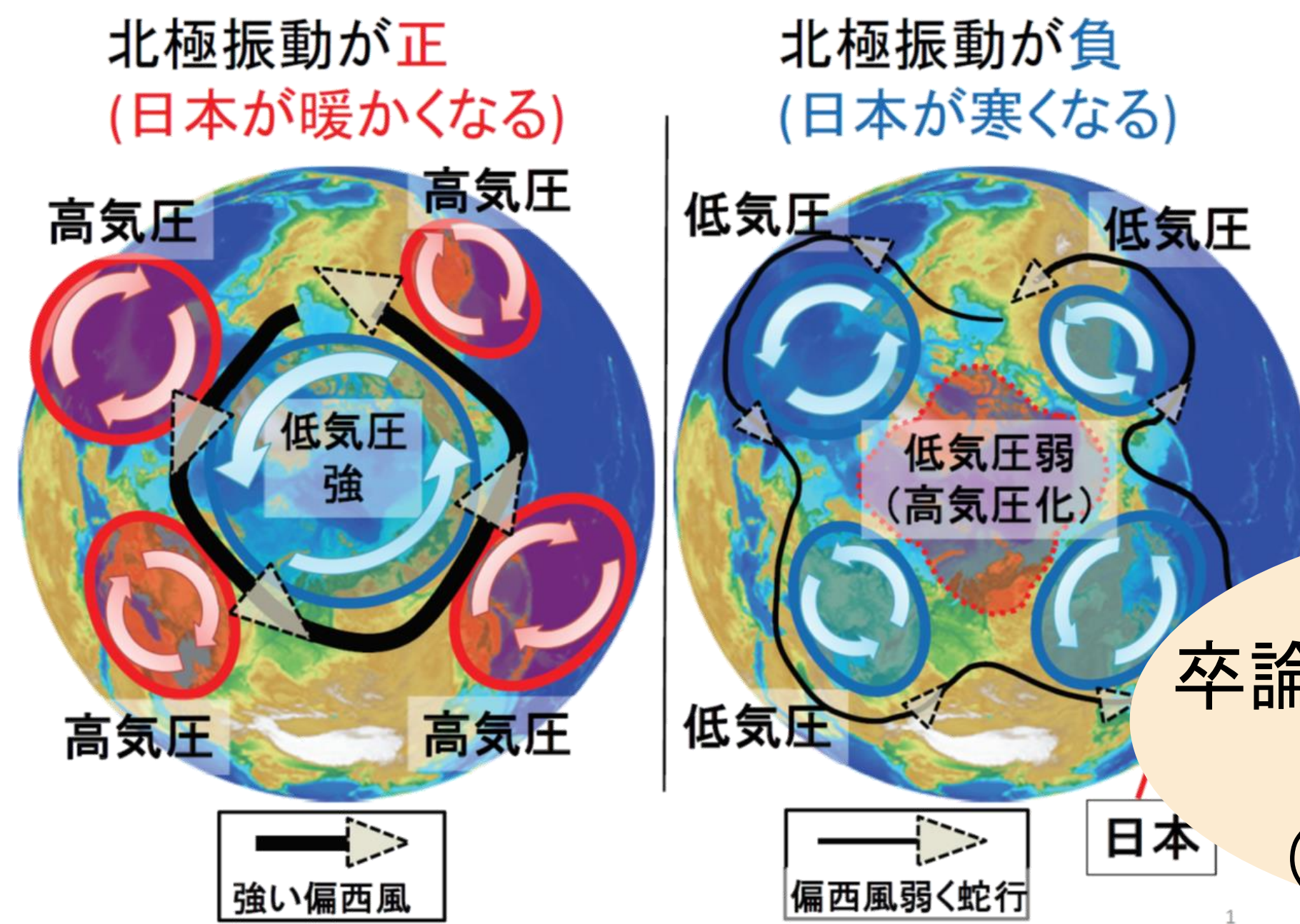
川崎健太さん  
修士1年秋に学会発表  
(2020年論文受理)

32年ぶりの大寒波は温暖化の影響か？  
～北極海アラスカ沖に空いた海水の巨大な穴が作る偏西風蛇行～  
～強い寒波と豪雪は今後も頻発する!？～



小松謙介さん  
ロシア船に単独で乗船  
(2019年論文受理)

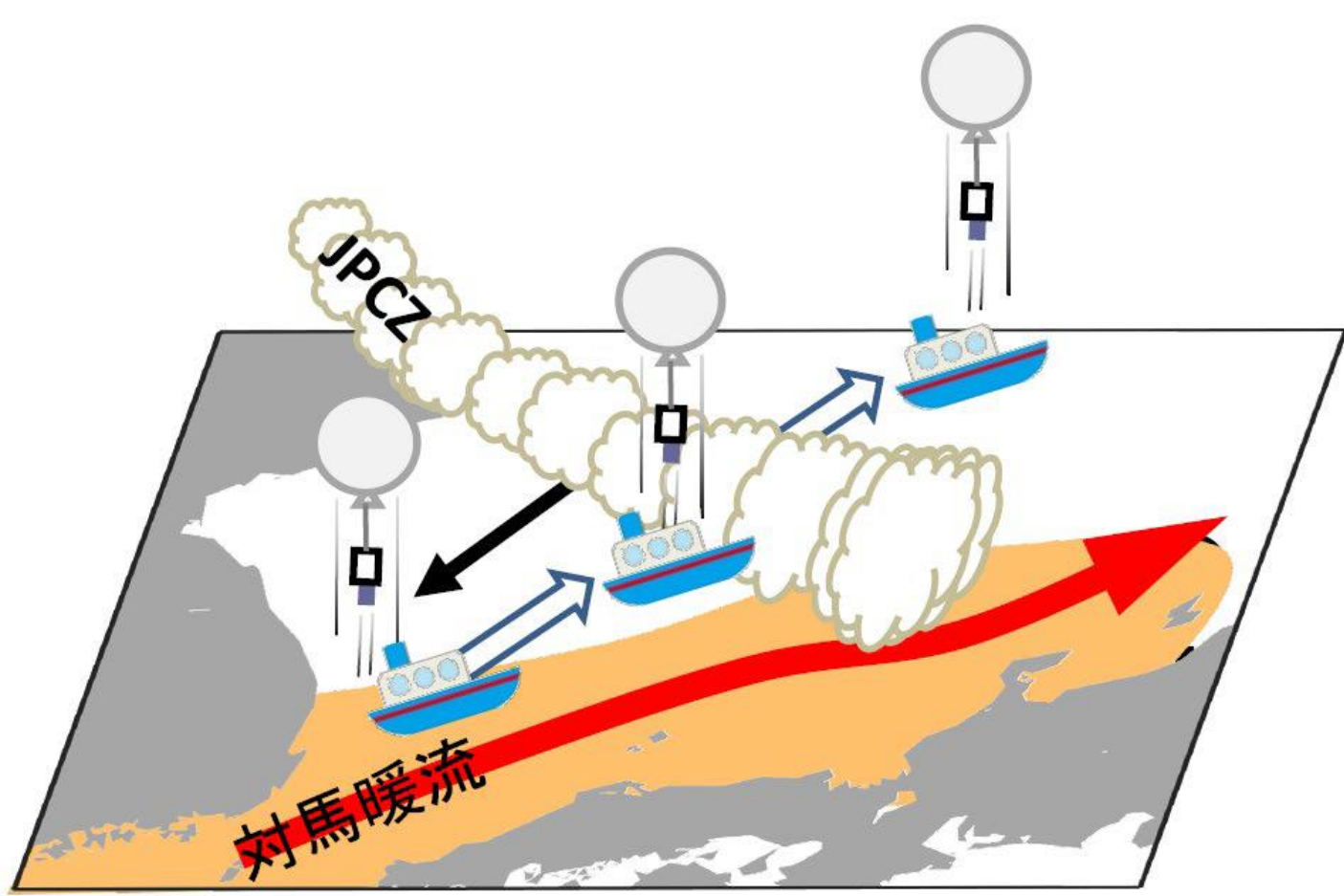
日本の異常気象が遠く南極に関係がある  
—北極振動と南極振動が一緒に変動していることを発見—



井上裕介さん  
卒論をもとにした論文が  
科学雑誌に掲載  
(2018年論文受理)

## 《気象観測してみない?》地球の謎を観測船に乗って直接視てみよう

豪雪をもたらすJPCZを  
日本海洋上観測で初めて捉えた  
— 1時間毎の気球観測に成功 —



2022年1月 (2023年も観測予定)  
1時間毎の気球観測とそれと同期した海洋観測によって JPCZ の  
実態とそれに及ぼす暖かい海洋の影響を捉えることに初めて成功。

線状降水帯のメカニズムを解明を目的とした  
東シナ海での日本初の大規模観測



2022年6月  
気象庁気象研究所ほか大学・研究機関が協力して行った、オール  
ジャパンの観測に学生らが乗船。黒潮が豪雨に与える影響を調査。

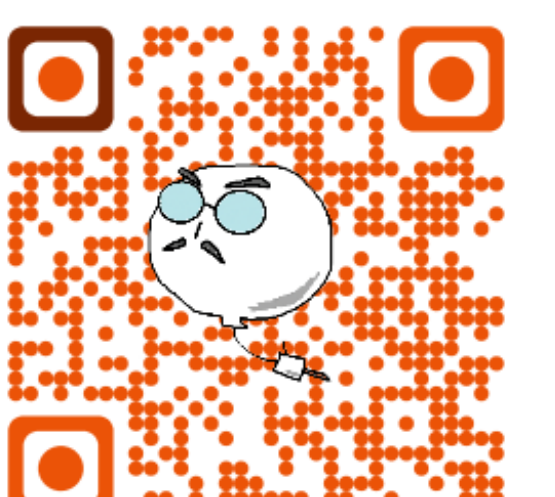
## 研究室メンバー

- 教授：立花義裕  
リサーチフェロー：荒木健太郎 (気象庁気象研究所)  
研究員1名  
博士院生3名 (男1：女2)  
修士院生8名 (男3：女5)  
学部生9名 (男6：女3)

地球love  
ワクワクするぞ  
気象力



立花先生  
HP



学生  
HP

